

そよかぜ

～ご利用者、ご家族とのかけ橋を願って～

第27号

平成23年5月1日発行



花咲かじいさん&
おばあさんの登場で...!



青空のもと、
笑顔も咲いた♪



いつかあなたと見た
桜の季節が
また、めぐってきた



いや～おみごと!



きれいだねえ



涼風苑 二十三年度の努力目標

◆医師・看護部門 医師 池田 八恒子

御利用者の健康を見守り、不調時には適切な看護・処置に努めます。往診程度の医療は提供できますが、病院ではありませんので、体調があまり悪い時には御家族の付き添いで早めの病院受診をお勧めして参ります。看護師の看護方針の統一・連携を心掛け、老年看護技術を高めめます。

◆介護部門 ケアマネジャー 市村 綾子

御利用者・御家族の思いを大切に、普段の生活の中で少しでも多く自分で行える事が出来るよう支援してまいります。食事時には可能な限り美味しく自分で食べられるように。日中可能な限りトイレで排泄できるように。御利用者の笑顔のために言葉遣いや対応を丁寧にし、優しい介護を心がけて参ります。委員会・サークル活動を通して環境、ケア体制を整え、気持ち良く過ごして頂けるように心がけていきます。

◆リハビリ部門 リハビリ主任 浅野 有子

「リハビリするなら涼風苑」と選んでいただけるような茨城県随一の総合的チームリハビリテーションサービスを提供します。療法士個々が治療技術をさらに向上し、信頼して頂ける個別機能訓練をいたします。利用者個々の人生と個性を大切にして、その人らしさが引き出せる、専門的な作業療法を目指します。

◆栄養・厨房部門 管理栄養士 川口 江里子

御利用者の機能や食体験・嗜好など一人ひとりの求めるものに沿えるような食事作りをまいります。「美味しい食事・楽しい食事」を第一に個別対応の健康・栄養管理をいたします。

◆口腔ケア部門 歯科衛生士 酒井 由美

きれいな口で健康に過ごして頂けるよう、御利用者のがむ歯磨き習慣を整えるお手伝いをいたします。また、体や気持ちの変化に応じた口腔ケアを、スタッフ全体で提供いたします。

◆支援相談員部門 支援相談員 野本 かおり

ご利用者が御家族の一員でいられるように、御家族と本人との関係を紡いでいくことに全力を尽くして参ります。

◆事務部門 事務長 関 彰

御利用者・御家族の安心を得られるように、まっすぐな対応・笑顔の対応に心がけます。無駄をなくす目を配り、経費節減を目指します。整理・整頓・清潔な施設づくりを支援します。

編集後記

このたびの東北関東大震災で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。涼風苑は日頃の備えが幸いし、建物の損傷なく、利用者様の食事・入浴・トイレのケアに支障なく大切なお客様を守る事が出来ました。リネン類やオムツの手立てに苦心しました。デイケアの送迎車や職員の通勤の車のガソリンを手立てするのにも苦心しました。でも、そんな困難を通して職員が一つになり、使命感を新たにいたしました。

新年度です。八峰会自慢の桜は、病院の新築の工事にも、この大震災にも負けず見事な花を見せてくれました。ご利用頂いております皆様、ご支援いただいております近隣の市町村・病院・施設・事業所・ケアマネジャーさん方、皆さんに感謝しながら新しい年度をしつかり歩みます。

編集委員長 浅野有子

編集委員

篠木美香 市村綾子 船串実 目崎友紀
川口江里子 酒井由美 柏川晴香

新入職員紹介

堀江 良臣

趣味：昼寝

足裏マッサージ

「利用者の皆さんが快適な生活を送れるよう頑張りますので、宜しくお願いします！」

飯田 直美

趣味：映画鑑賞

ドライブ

「一日も早く利用者さんの信頼を得られるように頑張ります！」



よろしくおねがい
しまーす!



今、私たちに できること

～ 宮城県女川町への支援報告 ～

涼風苑からは、下着類やタオル、トイレットペーパー等の生活用品類を、僅かではありますが寄付しました。→ また、スタッフと御利用者で被災者の方々へのメッセージボードを作成し、支援物資とともに届けました。



←4月9日被災地入り。届け先は女川町の福祉避難所。この建物は海拔20mの高さにありますが、津波はこの施設の一階部分にまで達したといわれています。避難所の周囲には、津波の爪痕が残されたままです。こちらには現在も50名前後の方が避難生活を続けていらっしゃるそうです。まだまだ復興の目途はたたず、ニーズに応じた長期的な支援が不可欠と感じました。

女川町の保健師さん(左)と涼風苑ケアマネジャー市村氏。→ 町の職員さんの中にも家族の行方が分からない方、自宅を失った方も大勢いらっしゃいます。目の前の避難民の方々の力になりたい気持ちと、自分の生活を何とかしなければという思いを抱え、葛藤しながら仕事をする日々だそうです。



◎ご協力のお願いです◎

- 現在、節電のために施設内の照明を一部消灯しています。御不便をおかけしてしまう事もあるかと思いますが、御理解のほど宜しくお願い致します。
- 今後、全国的な電力供給不足に伴い、やむを得ず入浴日等の苑生活スケジュールを一部変更する場合がございます。また、夏季には例年よりも施設内温度が高くなることが予測されます。スタッフも御利用者の水分補給に努めます。御家族様の方でも、早めの時期から着替え（特に薄手の洋服や下着類）を多めに用意して頂き、洗濯もこまめに行って頂きますようお願いいたします。

～未曾有の大震災を経験して～

平成23年3月11日、午後2時46分。太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。当苑のある龍ヶ崎市も震度5強を観測し、大きな被害を受けました。

＊ ＊ ＊

少し薄曇りの、いつもと変わらぬ午後。移動に介助の必要な2階の入所者の方を、おやつのために一階食堂へ御案内し終えた頃。デイケアではカラオケの大合唱の最中。初めは小さな揺れでした。すぐに収まると思いきや、勢いは増すばかり。鉄筋造りの施設が、縦に、横にと大きく揺さ振られました。

職員は直ちに施設内の状況を確認。次に来る余震に備え、利用者の方を安全な場所へ誘導しました。支援センターのケアマネジャーもすぐに御利用者のお宅へと出発。

幸いにも発生当時エレベーターを利用されていた利用者の方はいらっしゃらず、**当苑をご利用の方々は全員無事**が確認されました。また**施設の損傷もなく、ライフラインにも影響はありませんでした**ので、その日の夕飯も温かな食事を召し上がっていただき、御自分のお部屋でお休みになって頂くことができました。

大震災でも…

～涼風苑 奮闘記～

普段の介護を不断に！



- ★ **オムツやパットを工夫・活用する中で、厳しい品不足も乗り越えることができました！（色々なところと協力、共有しました。ありがとうございました。）**
- ☆ **自宅は水も出ず、お風呂に三日も入ってない。それでも利用者の為に、一生懸命入浴ケア頑張りました！スタッフは汗だく…それでもタオルで汗を拭い、さあ次の仕事！**
- ★ **余震が続く中だからこそ、御利用者に地震の不安が伝わらない様に、普段よりも笑顔で仕事。皆いるから大丈夫！日本を元気にするつもりで頑張ろう！と励まし合い。**
- ☆ **ガolin不足でも、通所の御利用者をいつもと同じように送迎できるように朝早くからスタンドへ。スタッフ全員で開店しているスタンドの情報を共有し、交代で送迎車にガolinを入れ続けました。**
- ★ **余震でエレベーターが動かなくても、スタッフ4人ひと組で、御利用者を車椅子ごと階段で移動。普段歩行練習をしている方は、作業療法士と共に階段ヘトライ！なかには、初めて階段をのぼって上がった方々も。「いや～やればできるもんだね！」「リハビリ頑張ってた良かったよー！」**
- ☆ **勤務日以外でも、御利用者が心配だからと苑へ顔を出す。夜中でも大きな余震があれば電話で安全確認。疲れていても朝早くから通勤用の車のガolinを工面。電車が止まっても、家族の協力でなんとか出勤。全て「いつも通いの涼風苑」の為の努力です。**